





いのちの海  
中学あがりからすぐに海になりました。まあ一年の三分の二は海の上の暮らしです。  
申し訳ないことだと今になって悔やまることですが、末の妹が死んだのも遠洋の海のうえで聞きました。  
大分仕事も楽になつてからのことでした  
たが、八〇で死んだ親父の死に目にも海にでいて出会つてやれませんでした。  
なにしろ急死は急死であつたんですから。

そんなことで、海のうえの人生ちゅうのは、いかにも因業な、いわば罪業深重なものだと、そんなときにはつくづく身に染みて思つたものです。

しかしそれがやめられませんんだ。  
その機会は、なんどかあったと思いま  
すが、やっぱりよう船から降りれんやつた。

海がしんそこから好きになつてしまつていて、というより、海がもうわしを離してはくれんやつたんでしょう。  
長年、海で暮らしてくると、海ほどの不思議はないと知らされます。  
荒れしける日もあります。

うねうねノタリノタリの春の匂いだ日  
ごみや赤潮の浮かんだ内海もあれば、  
南の海はルリ色に透き通つた鏡のよう  
なあります。

しかし、わたしに取つては、それらはみんな一つの大好きな不思議な命のなかな  
んです。  
とほうもなくおおきな不思議な海とい  
ういのちのなかの、その日その時のすが

たなんだということが分かつて来ました。  
わたしはそのおおきな不思議な海のいのちの虜になつてしまつて、もうなにがあつても離れられなくなつてしまつています。

ご開山様の話を聞くと、ご開山さまは

「海の人」ではなかつたんですね。

煩惱の荒れ狂う海にもまれて暮らしておいでのうちに、その海から離れられ

ようになつたと。

荒れ狂う海の底に、とほうもなく大き

な不思議な如来様のいのちがある。

その如来様のいのちにとうとう摑め捕

られてしまつて、そこからもう離れられ

ん身におんななさつたということです。

生きて、親の死に目にも会えんような

極道因業なこの身のままが、帰命無量寿

南無不可思議の、お救いのどまん

かと知らせてくださつた親鸞様を、わ

たしは今肉親のおやじのように思えてな

らんのです。

もつたないことかも知りませんが。

去年ばあさんが先に逝つてしまつて、  
一人居りになつてしまつて、息子たちが  
うちに來い心配だからと言いますが、年  
寄りの冷水、「なに言うんじや、今まで  
親の言うこと聞かず自分から飛び出して  
おいて。まだまだ一人でなんとかなるわ  
い」と。

しかしまあ、どんなに強がり言つてみ  
ても、年が年です。  
ですから、言うことだけは言つて置か  
ねばと、こないだ家の一周忌。

有り難いご法話たまわつてご院家さん  
が帰られたあと、二人の息子夫婦を前に  
座らせて言つてやつたんです。

言ってやつたんですが、案の定、困つ  
たものです。

ご法話の時には、殊勝らしく、なんべ  
んも頷いて、涙さえうかべておつた二人  
の嫁まで、まあおんじ事です。

いえなに、特別、難題を言つた訳では  
ありません。  
ただマア、「仏法さまに会つて呉れよ  
と、これ、たつた一つの頼み」と言つた  
だけです。

ところが、四人。それこそ異口同音に  
言ふんです。  
「忙しい」って

何がそんなに忙しいか。  
「仕事もせんならん。バイトもせんならん。」と。  
何のためにそんなに働かにやならんの  
じや。

「働かねば食ういけん」とぬかすので  
あります。

バカ息子の  
おろかな親

(納骨) 旅行  
の 横が決まりました。  
詳しくは後日ご案内しますがご予定く  
ださい。

勝林寺仏事様		京都～湯の山温泉
幹事様	様	旅行日 6年6月19日(日)～6月20日(月)
1 6/19 (日)	出石 6:00 — 夜久野D.I. 6:50-7:00 須知D.I. 8:30-8:40 京都大谷本廟納骨 10:00-11:00	
	大阪市 荘卷湖パラダイス(昼食) 11:40-12:40 鮎IC 鮎IC 甲南町 甲賀淀忍者屋敷 14:00-15:00	
	—(鈴鹿峠) — 関D.I. 16:00-16:10 湯の山温泉(泊り) 17:00	
2 6/20 (月)	宿 8:40 — 湯の山 === 須知在所岳展望 === 湯の山 —(鈴鹿峠) — 0-7941 0-7941 9:00-10:30	
	(近江八幡水堀めぐり) 近江八幡~近江八幡 13:00~(船内昼食) ~14:30 大津SA 15:30-15:40	
	— 西紀SA 17:10-17:20 鮎IC 夜久野D.I. 18:20-18:30 出石 19:20	

「アホー。食うたて死ぬ、食わなんでも死ぬ。人間どないしてもいはずれは死ぬんじゃぞ」  
「食わなんだら死ぬるがな」。

私、カツと頭に来て、何のために食うす。  
「アホー。食うたて死ぬ、食わなんでも死ぬ。人間どないしてもいはずれは死ぬんじゃぞ」  
そういうことで、またまた親子の間、  
しらけてしもうて。  
別れてまた私一人暮らしかえつたん  
ですが、まあこんなことですワ。

ご院家さん、そこで、すまんけど、う  
ちに毎月送つてくれはるお寺さんの新聞、  
郵送料持たしてもらいますで、うちのバ  
カ息子どももの所へ届けてやつてくださいませ。

愚かな親の頼みです。